

# 復興のシンボル 「タコ人形」販売

## 京の女性、被災者と創作



宮城県気仙沼市の人たちが作ったタコの毛糸人形を手作り市で販売する  
梅村マルティナさん(左)と京都市左京区・百万遍知恩寺

京都市で編み物教室を主宰する梅村マルティナさん(52)は、京区Ⅱが、宮城県気仙沼市の避難所で生活する被災者と毛糸の「タコ人形」作りに取り組んでいる。編み物を楽しんでひとときでも震災の悲しみを忘れてもらおうと、今月から始めた。梅村さんは売り上げを現地に届けるため、15日に京都市内で人形を販売した。



が入った。「もっと毛糸女性に限られたため糸がほしい」。津波で「誰でも簡単な毛糸人形にしよう」と提案。家族を失った人もいる形にしよう」と提案。色中、手を動かすことで鮮やかなドイツ製の毛糸を使い、気仙沼で漁をしていたタコの人形に笑った」と話す人も。親交が芽生え、梅村さんが訪れた。編み物をするのは一部の

梅村さんは震災直後、各地の避難所に編み物セットを送った。すると4月末、約70人さんが7月10、12日に生活する気仙沼市の小原木中を訪れた。編み物をするのは一部の

### 「生きる自信」願い

(中塩路良平)

つても再生することが「復興のシンボル」の意味も込めた。高齡女性から中年男性、子どもまで幅広い世代から参加者があ

り、鉢巻き着用や袈裟姿の僧侶風、カーリーヘアなど個性豊かなタコを創作した。作品を話す。24日に上賀茂神社(北区)でも販売す

た。梅村さんは15日、気仙沼市を訪れた3日間制作した約80体を、左京区)の「手作り市」で販売した。「自分の作品が売れてお金になれば、生きていく自信